

# 元気のヒント

◁53▷

徳島大学病院糖尿病対策センター



船木 真理

値の上昇に最も大きく関わっているかに個人差があるため、最適な薬剤はどれかを検討することになります。

2型糖尿病の日本人に目立つインスリン分泌不全に対し、スルホニル尿素薬は膵臓からのインスリン分泌を強力に促進して血糖値を下げ、安価でもあり、よく使用されてきました。しかし、長期間の使用で効果が薄れることがあります。

## 糖尿病治療薬の使い分け

グリニド系と呼ばれる速効型インスリン分泌改善薬は、スルホニル尿素薬に比べて作用時間が短く、食後高血糖に効果するインスリン分泌促進剤として用いられます。食後高血糖への対処には、食事で腸に到達した糖の吸収を遅らせる作用を持つα-グルコシターゼ阻害薬を用いることも可能です。

## 2種併合し効果期待も

血糖降下作用の低下が目立つ場合には、主に肝臓や筋肉に作用して安価なビッグアナイド薬や、主に脂肪や筋肉に作用するチアゾリジン系と呼ばれるインスリン抵抗性改善薬を選びます。

さて、3年ほど前からインクレチン関連薬と呼ばれるDPP-4阻害薬やGLP-1受容体作動薬が使用できるようになりました。このタイプの薬剤は、スルホニル尿素薬やグリニド系の薬剤と異なるメカニズムで膵臓のインスリン分泌を促し、また、血糖上昇作用を持つグルカゴンというホルモンが膵臓から分泌されることを抑制します。

低血糖の発生や体重増加といった、既存のインスリン分泌促進薬で血糖の降下が不十分な場合にも効果が期待できることから、近年利用が急速に広がっています。

1種類の薬剤で十分な血糖降下が見られない場合、同じ薬剤の量を増やしても副作用が目立つ懸念がある際には、作用起序の異なる薬剤が併用

されます。また、食前・食後を問わず一日を通じて良好な血糖値を保ちやすいことから、インスリン注射と血糖降下剤を併用することも、最近広がっています。

糖尿病治療薬は、現在も開発が精力的に進められています。例えば、尿に排出する糖を増やすことで血糖降下を図ると考えられます。生活習慣改善の重要性は今後も続きます。

### 薬物療法



血糖値の高い状態が続くと全身の血管がダメージを受けます。とりわけ、食後の高血糖が動脈硬化につながることも分かってきました。糖尿病治療の目標は、血糖値を正常なレベルに保ち、血管の障害を防いで健康寿命(自立して活動的に生きる期間)を延ばすことです。

糖尿病を患う日本人の9割以上を占める2型糖尿病では、食事療法・運動療法という生活習慣の改善で血糖値が目標のレベルまで低下しない場合、薬剤を用いることとなります。昨今、新たな血糖降下剤が開発され、薬剤の選択が大幅に拡大しました。

それぞれの血糖降下剤には特徴があり、また、2型糖尿病ではとてついった異常が血糖

# 個人差考え適性を検討